

篠山東雲高

# 今秋、仏農業高と交流

## 農林水産省のプロジェクトで 先駆け仏校長が来校

農林水産省の「日仏農業教育連携プロジェクト」を展開中の篠山東雲高校は、11月13日から2週間、フランスのウジエニジュル農業高校の生徒と教員それぞれ3人を受け入れ、「食文化と食品加工」「農福連携」をテーマに交流する。これに先駆け、同農業高校の校長(51)が来日。12日、東雲高で打ち合わせや学校見学、丹波篠山市内視察を行った。

東雲高で同日、校長の来校に伴い、全校集会が開かれた。

校長は日本で18年間暮らした経験があり、妻が日本人とあって日本語が堪能。全校生徒(72人)に流ちょうな日本語で、「フランスでも日本と同様、農業の後継者不足が問題になっている。フランス、日本の双方にとってプラスになる交流実習計画を立てていきたい。日仏の農業の未来を一緒に考えていきたいと思います」と呼びかけた。

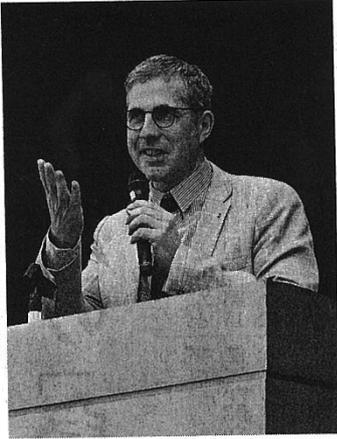
授業の様子や農場も見学。畜舎では肥育している黒毛和牛の体重測定に立ち会い、「700キログラム以上から出荷する」などと説明を受けた。実習田を歩いた際には、獣害防止の電柵に関心を示し、「フランスでもインシシによる獣害はあるが、ハンターが多いので、日本ほどの被害はない」と話していた。

また、丹波篠山市役所を訪問。副市長と面会し、同プロジェクトの趣旨を説明したほか、市内の高齢者施設小学校、養護学校との交流も計画していることを伝えた。さらに、同農業高校があるイッサンジョー市と丹波篠山市とが、姉

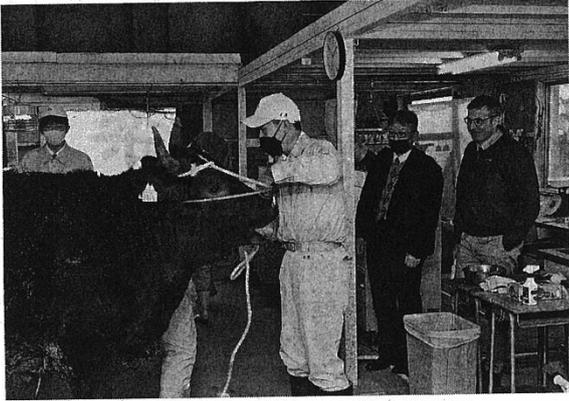
妹都市提携を見据えた交流を進めてきた。ようやくコロナが落ち着き

2023年4月23日  
丹波新聞

始めた今年2月、東雲高の生徒3人と教員2人が5日間の日程で訪仏。農業高校などを訪ね、フランスの農業を学んだほか、現地高校の寮に宿泊しながら生徒たちと交流したり、校長の自宅へ食事招かれたりしながら異文化体験をした。訪仏メンバーの一人、さん(2年、篠山)は、「今度待ちにしている。こちらは歓迎する。日本の農業を海外に伝えると同時に、日本の文化の素晴らしさも伝え、日本を好きになってもらいたい」と訪問を心



全校集会であいさつする仏の農業高校の校長(丹波篠山市福住)



東雲高校の畜舎などを見学する 校長(右)

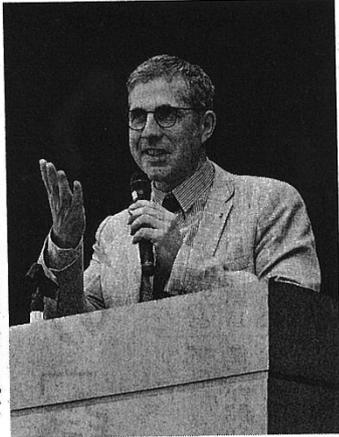
篠山東雲高

# 今秋、仏農業高と交流

## 農林水産省のプロジェクトで 先駆け仏校長が来校

農林水産省の「日仏農業教育連携プロジェクト」を展開中の篠山東雲高校は、11月13日から2週間、フランスのウジエニジュル農業高校の生徒と教員それぞれ3人を受け入れ、「食文化と食品加工」「農福連携」をテーマに交流する。これに先駆け、同農業高校のフランク・コパン校長(51)が来日。12日、東雲高で打ち合わせや学校見学、丹波篠山市内視察を行った。(大治庄三)

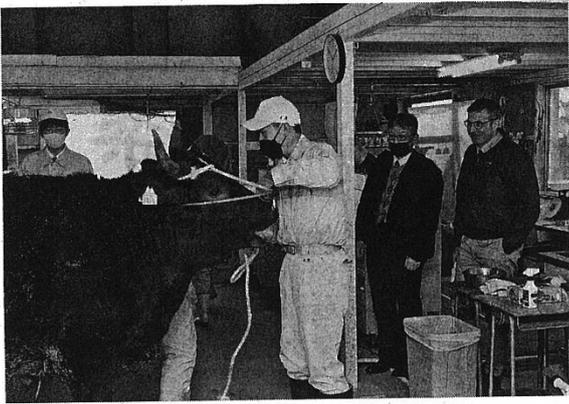
東雲高で同日、コパンに考えていきましよう」校長の来校に伴い、全校集会が開かれた。コパン校長は日本で18年間暮らした経験があり、妻が日本人とあって日本語が堪能。全校生徒(72人)に流ちょうな日本語で、「フランスでも日本と同様、農業の後継者不足が問題になっている。フランス、日本の双方にとってプラスになる交流実習計画を立てていきたい。日仏の農業の未来を一緒に」と話していた。



全校集会であいさつする仏の農業高校のコパン校長。丹波篠山市福住で

また、丹波篠山市役所を訪問。堀井宏之副市長と面会し、同プロジェクトの趣旨を説明したほか、市内の高齢者施設小学校、養護学校との交流も計画していることを伝えた。さらに、同農業高校があるイッサンジョー市と丹波篠山市とが、姉

妹都市提携を見据えた交流都市として親交を深めていこうと話合った。同プロジェクトは2020年から取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまでオンラインによる交流を進めてきた。ようやくコロナが落ち着き



東雲高校の畜舎などを見学するコパン校長(右)

始めた今年2月、東雲高の生徒3人と教員2人が5日間の日程で訪仏。農業高校などを訪ね、フランスの農業を学んだほか、現地高校の寮に宿泊しながら生徒たちと交流した。訪仏メンバーの一人、栗野謙心さん(2年、篠山中出身)は、「今度待ちにしている。はこちらがお迎えする番。日本の農業を海外に伝えると同時に、日本の文化の素晴らしさも伝え、日本を好きになってもらいたい」と訪問を心

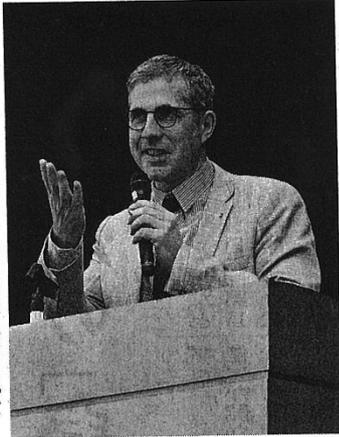
篠山東雲高

# 今秋、仏農業高と交流

## 農林水産省のプロジェクトで 先駆け仏校長が来校

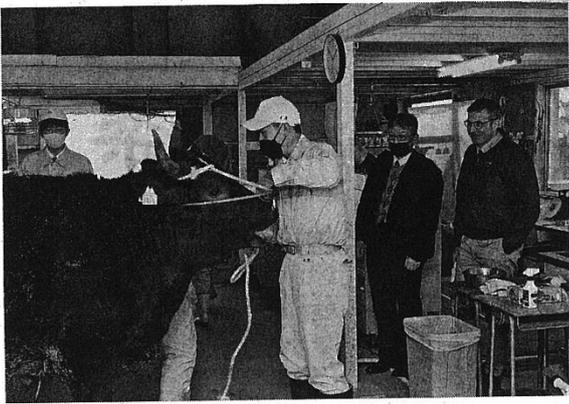
農林水産省の「日仏農業教育連携プロジェクト」を展開中の篠山東雲高校は、11月13日から2週間、フランスのウジエニジュル農業高校の生徒と教員それぞれ3人を受け入れ、「食文化と食品加工」「農福連携」をテーマに交流する。これに先駆け、同農業高校のフランク・コパン校長(51)が来日。12日、東雲高で打ち合わせや学校見学、丹波篠山市内視察を行った。(大治庄三)

東雲高で同日、コパンに考えていきましよう」校長の来校に伴い、全校集会が開かれた。コパン校長は日本で18年間暮らした経験があり、妻が日本人とあって日本語が堪能。全校生徒(72人)に流ちょうな日本語で、「フランスでも日本と同様、農業の後継者不足が問題になっている。フランス、日本の双方にとってプラスになる交流実習計画を立てていきたい。日仏の農業の未来を一緒に」と話していた。



全校集会であいさつする仏の農業高校のコパン校長。丹波篠山市福住で

また、丹波篠山市役所を訪問。堀井宏之副市長と面会し、同プロジェクトの趣旨を説明したほか、市内の高齢者施設小学校、養護学校との交流も計画していることを伝えた。さらに、同農業高校があるイッサンジョー市と丹波篠山市とが、姉



東雲高校の畜舎などを見学するコパン校長(右)

始めた今年2月、東雲高の生徒3人と教員2人が5日間の日程で訪仏。農業高校などを訪ね、フランスの農業を学んだほか、現地高校の寮に宿泊しながら生徒たちと交流した。訪仏メンバーの一人、栗野謙心さん(2年、篠山中出身)は、「今度待ちにしている。はこちらがお迎えする番。日本の農業を海外に伝えると同時に、日本の文化の素晴らしさも伝え、日本を好きになってもらいたい」と訪問を心

妹都市提携を見据えた交流都市として親交を深めていこうと話した。同プロジェクトは2020年から取り組んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまでオンラインによる交流を進めてきた。ようやくコロナが落ち着き